ゆたかにかえる。先見と行動 ヤマスポ

東日本大震災から8年

２０１１年３月１１日、日本観測史上最大規模の東北地方太平洋沖地震が発生してから８年が経過しました。今なお５万人を超える方々が避難生活を送られている現実に、被害の大きさと復興への道の険しさを感じざるを得ません。本地震災害やその後に各地で発生している災害で犠牲になられた方の、ご冥福をお祈りすると同時に、被災されました方々に心よりお見舞いを申し上げます。

今号では、山神ゆたかが計１０回のボランティアで感じた事、妻の有子さんがエコノミー症候群対策の体操を指導する為に避難所を訪れた際の事、現在の開成町の防災対策について考えることなど、インタビューをしました。

これまでの山神ゆたかのミニ集会でのアンケートにおいて、最も関心が高かったのが「災害に強い町づくり」でした。南開トラフ地震の発生確率の引き上げもあり、今後、住民の皆さんの関心はますます高まる物と思います。

震災当日

【イ】インタビューアー
【山】山神ゆたか
【有】山神有子（妻）

【イ】地震の当日はどのような状況だったのでしょうか？

【山】当日は東京駅前４２階建てビルの４１階で仕事中でした。経験したことのない大きな横揺れに、「ビルが折れるのでは？」、「コピー機が窓を突き破って落ちるのでは？」との恐怖を感じました。同僚の多くは屋外に避難しましたが、私はお客様と取引中の為にオフィスのテレビで流れる現地の映像を横目に見ながら仕事を継続していました。

【イ】当日の帰宅についてはいかがでしょうか？

【山】東京駅は大混雑、周辺の道路は大渋滞。「東京には人がこれほどいるのか」と思うほど帰宅の為に歩いていました。この光景を見たときに、強く思った事は、首都直下の災害が起きた際に、緊急車両が動けなくなるのでは？と感じました。また、高層マンションなどは、エレベーターの利用が出来なくなり、何度も階段を利用しなければならなく、東京一極集中の問題を強く感じました。現在ではその面を考え、防災の面でも開成町に企業誘致出来るメリットになると考えられます。

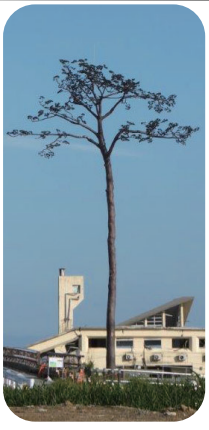
ボランティア活動1

【イ】どのような経緯で活動を行ったのでしょうか？

【山】外資系企業は社会貢献やボランティア活動を積極的に支援しています。また、ハンズオン東京経由でも独自に活動をいたしました。大学時代の同部屋の２名が福島県出身だったことで東北には一段の愛着があり、ボランティア活動に至りました。

【イ】最初の印象を教えてください。

【山】最初の訪問で、自然の驚異を強く感じました。復興が進まない状況を目の当たりにし、少しでも何かの役に立てればと思い活動を重ねました。

【イ】１０回の活動はどのような事をおこなったのでしょうか。

【山】避難歩道の整備、土のう作り、市役所の清掃、牡蠣養殖のいかだ作り、ビニールハウスの土壌作り、塩害に強いコットン栽培と収穫、田んぼ内のがれき処理とあぜ道作り、田畑の草刈りなど。多くの活動を行いました。活動の中でボランティアに対して地元の方々が豚汁や焼き芋など温かい料理を作ってくださり、心も体も温かくなりました。あの味は忘れられません。